

第3回 釧路都心部まちづくりフォーラムの開催結果について

- 1 日 時 2024年(令和6年)2月21日(水) 13:00~16:05
- 2 場 所 釧路市観光国際交流センター 大ホール
- 3 主 催 釧路市
- 4 共 催 釧路商工会議所
- 5 後 援 北海道新聞釧路支社 釧路新聞社
- 6 来場者数 305名
- 7 プログラム



(1) 開会挨拶	釧路市長 蝦名 大也
(2) 報 告	「釧路都心部に多様な居場所を生み出す」 北海道大学大学院教授 高野 伸栄 氏
(3) 基調講演	「プレイスメイキングー愛したくなるまちの日常をつくろう」 (株) Groove Designs 代表取締役 三谷 繭子 氏
(4) パネルディスカッション	「多様な過ごし方を叶えるために、今できることと将来のまちづくりー プレイスメイキングを例に」
	(コーディネーター) 高野 伸栄 氏
	(パネリスト) 三谷 繭子 氏
	〃 国土交通省 都市局 今 佐和子 氏
	〃 釧路観光コンベンション協会 佐藤 明彦 氏
	〃 釧路市地域おこし協力隊 小野寺 理江 氏

7ー(2) 報告の概要【北海道大学大学院 高野教授】



高野教授

- 釧路都心部まちづくり計画の内容説明・・・釧路駅周辺の将来像や高架区間の説明 等
- 都心部まちづくりの動き・・・くしろポ(大学生)や都心部全体の取組紹介 等
- 釧路駅周辺の再整備方針に基づくVR映像の紹介・・・詳細は、[説明資料3](#)を参照
- 市民ワークショップの開催概要とその結果を
踏まえた再整備のイメージ(鳥瞰図)の更新・・・詳細は、[説明資料2](#)を参照

7ー(3) 基調講演の概要【Groove Designs 代表取締役 三谷氏】

- プレイスメイキングとは・・・公共空間を地域の人々と一緒につくるプロセスのこと。
地域の人々自身が、地域の資源を使って人が集まり楽しめる場をつくるプロセスがプレイスメイキング。
- 8つの場の要素について・・・地域の環境資源を生かす事例として、「座り場」「眺め場」「話し場」など8つの場の要素が重要であり、複数の場を組み合わせることで居心地の良い場をつくり出すことができる。そのような場をつくり出せば、人は巡る。
- まとめ・・・・・・・・プレイスメイキングで「愛されるまち」を育てる。
①手軽に、早く、安く、1人でもできるような小さなことから始めよう。
②まちと人々を結びつけ、誇りと愛着を産み育てることが重要。
③プレイスメイキングによって、都市という場を共有し、共につくる感覚を養うことで、次につながっていく。プレイスメイキングに終わりは無い。

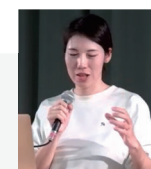


三谷代表

7ー(4) パネルディスカッションの概要

国によるまちづくりの方向性について

- 戦後、日本の道路は自動車交通量を基準に、円滑に車が流れるよう造られてきた。しかし、車の交通量が減少している現在では、車から人へのシフトが進んでおり、それは世界的なトレンドとなっている。
- 日本も車中心から人中心のまちづくりにシフトしており、国では都市施策として、ウォーカブルなまちづくりを推進している。ウォーカブルのイメージは、Walkable(歩きたくなる) Eye level(まちに開かれた1階部分の店舗等) Diversity(多様な人の多様な用途、使い方) Open(心地よい開かれた空間)【WE DO】と覚えてほしい。



今 佐和子氏

市民ワークショップでの議論等について



佐藤 明彦氏

- 私が考える豊かな暮らしは、リバーサイド～駅～北大通を人々が移動して楽しむ空間をつくることで実現できる。その際、自転車や新しいモビリティなどの移動ツールの活用を想定しながら、まちづくりを進める必要があると思う。また、私はアウトドアが好きなので駅前でキャンプをしたい妄想があるし、フォトスポット(夜のイルミネーション等)巡りの場をつくってもらいたい。(佐藤氏)
- 今は、目的地までまっすぐ向かっているが、途中で寄り道ができる場所があれば幸せ。ワークショップでは芝生の話題があったが、私自身、芝生というと立ち入り禁止のイメージが強い。近くにレンタルショップを置き、ブランケットやピクニックシートを貸し出すことで「使って良いんだ」ということが伝わり、芝生の利用が大きく増えると思う。(小野寺氏)
- そのレンタルショップは行政と民間で話し合いながら、民間に任せることを考えたらよい。行政ができることには、限界がある。民間を活用すべき。(三谷代表)



小野寺 理江氏

プレイスメイキングによる「場のつくりかた」について

- 屋外で「場をつくる」ということは、新たな文化をつくることと同じであり、短期間でできるものではない。栃木県小山市で、個人的な活動として、まちなかの空き地でブルパーティを企画したり、公園でお弁当を持ち寄ってピクニックを開催したりしたが、失敗も多かった。しかし、続けることで参加者の「ゆるい人の輪」が広がるものである。(今氏)
- 沿道のお店の方に1mのスペースの協力をお願いし、そこにテーブルやイスを置くことが「場づくり」の第一歩。できることから始めることが重要。(三谷代表)(今氏)
- 沿道にテーブルやイスを置いても、最初は誰も使わない。しかし、しばらく置いておけば、景色に馴染み人々が使いだすようになる。(今氏)

「場をつくり出す」ための社会実験と行政の役割について

- 最近のトレンドとして、社会実験を実施した上で、「まち」としてこれを「やる・やらない」を決める事例が多い。実験中に物(施設)が傷つけられたりするようなことも多いが、逆にどれだけの損害があるのか知ることでもできる。そのようなことを検証し、次の社会実験に生かすことを考えるべき。(三谷代表)
- 行政(役所)が何かをするなんて思わない方が良いと思う。「使うこと」を考えることは行政は苦手。釧路には、佐藤さんや小野寺さんなどセンスの良い使い方を考えてくれる人がたくさんいるのではないかな。そのような人たちのやりたい事を、行政が後押しすることが重要。その意味では、センスの良い人たちが考えたことを行政が社会実験等でバックアップする姿勢が重要。(今氏)